

腸管出血性大腸菌 O-157 に注意しましょう

O-157は、飲食物を介して経口感染するもので、空気感染などはおきません。

健常な成人の体内に菌が入ったとしても、症状がないことが多く、乳幼児、小児、基礎疾患を有する方が感染した場合に、激しい腹痛、出血性下痢等の症状が出ることもあり、まれに溶血性尿毒症症候群等の重症合併症が発生する場合があります。

家庭内においても、予防対策を十分に行いましょう。



●手指の洗浄、消毒を
しましょう。



●食品は十分に加熱
しましょう。

●飲料水
(井戸水、受水槽)の
衛生管理を
徹底しましょう。



●調理器具は
衛生的に
取り扱い
ましょう。

予防
対策

0-157の感染経路

0-157は菌が飲食物などを介して口から入ることで感染します。

菌のついた手や調理器具などを介しても菌が食物にうつり感染します。



感染したときの症状

感染後4～8日の潜伏期の後、症状を引き起こします。

初期は風邪と同じような症状のことがあります。腹痛や水様便を伴い、出血性となることがあります。

発熱を伴うこともありますし、盲腸炎に似た症状が出ることもあるので、注意が必要です。

下痢を起こした時の注意

1

安易に下痢止めなどを服用しないで、すぐ医師の診断を受け指示に従いましょう。乳幼児は特に注意しましょう。



2

二次感染を予防するため、疑わしい時には風呂に入らず、シャワー又はかけ湯にしましょう。又、体調の悪い時は、プール、海水浴は止めましょう。



3

便には直接触れないようにし、触れたときは、石鹸を使い流水で十分に洗い流しましょう。



栄養

休養

睡眠

を十分とって健康の保持増進に努めましょう

■お問い合わせ先■ 鳥取市中央保健センター
電話:0857-20-3191
または最寄りの総合支所福祉保健課